

令和7年度 ひとはくの概要

令和8年2月

I 施設の概要

1 設置目的及び沿革

(1) 設置目的

自然の摂理、生命の尊厳及び人と自然との調和した環境の創造に関する県民の理解を深め、教育、学術及び文化の発展に寄与する。

(2) 沿革

昭和61年12月	兵庫県立自然系博物館建設基本構想（報告）策定
平成3年12月	研究・収蔵棟完成
平成4年3月25日	本館（ホロンピア館）工事完了
4月1日	兵庫県立人と自然の博物館の設置及び管理に関する条例施行 姫路工業大学自然・環境科学研究所設立
10月10日	開館
平成13年3月	「人と自然の博物館の新展開」策定
平成16年4月	県立大学の統合に伴い、研究所を兵庫県立大学自然・環境科学研究所に改称
平成19年3月	新たな「人と自然の博物館基本構想」策定
平成20年3月	新たな「人と自然の博物館基本計画」策定
4月20日	「ひとはく恐竜ラボ」開館
平成24年10月	移動博物館車「ゆめはく」導入
平成25年3月	「ひとはく将来ビジョン」策定
平成30年8月	「新収蔵庫棟基本構想」策定
令和4年10月29日	新収蔵庫棟「コレクションナリウム」開館
令和5年3月	「ひとはく将来ビジョン2032-みんなと共に、地域と共に-」策定

(3) 歴代館長等

平成2年6月～	伊谷 純一郎（設立準備室長）
平成3年4月～	加藤 幹太（ ” ）
平成4年4月～	加藤 幹太（初代館長）
平成7年7月～	河合 雅雄（第2代館長）
平成15年4月～	岩槻 邦男（第3代館長）
平成25年4月～	中瀬 勲（第4代館長）
令和6年4月～	村上 哲明（第5代館長）

2 施設の規模・構造等

(1) 規模・構造

ア 施設規模 敷地面積：40,836㎡（人博 10,764㎡三田市 30,072㎡）
 建築面積：8,052㎡ 延床面積：20,475㎡

イ 建物構造

本館	鉄骨・地上4階（設計：丹下健三）
エントランスホール	鉄筋コンクリート
研究、収蔵棟	鉄筋コンクリート・地上3階
ジーンファーム	軽量鉄骨
ひとはく恐竜ラボ	鉄骨平屋
新収蔵庫棟	鉄筋コンクリート一部鉄骨造・3階建
管理棟	鉄骨コンクリート

ウ 展示室等面積

展示関係	教育普及関係	収蔵関係	研究関係	管理関係	共用部門	合計
4,350 ㎡	1,375 ㎡	3,681 ㎡	2,185 ㎡	364 ㎡	8,520 ㎡	20,475 ㎡

エ 建設費 施設 6,576百万円 その他 180百万円

(2) 収蔵品・資料等数

区分	点数
①植物	650,946 点
②昆虫	1,361,559 点
③その他動物（哺乳類＋鳥類等）	45,117 点
④地学系（化石＋鉱物＋ボーリングコア等）	155,404 点
⑤環境系（古地図等）	26,421 点
合計	2,239,447 点

* 令和7年12月末現在

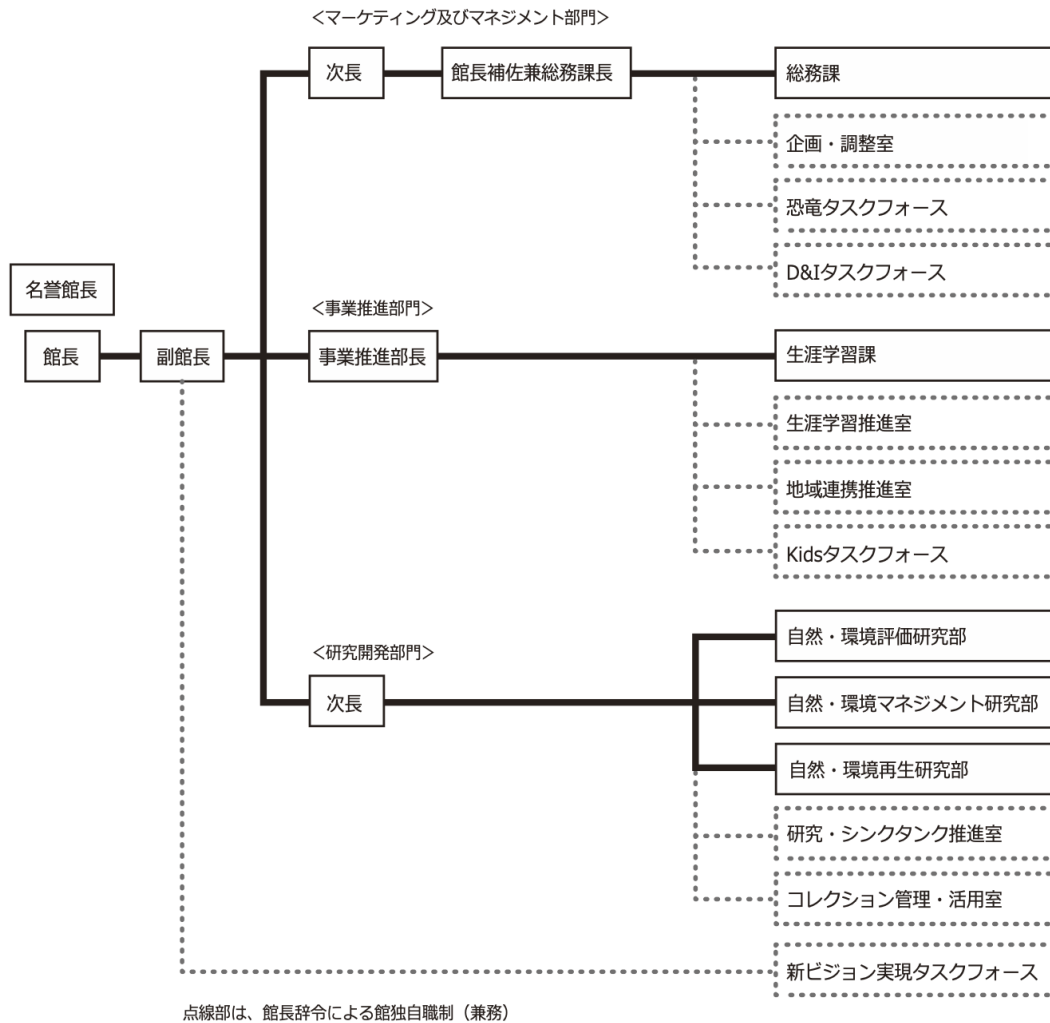
3 施設運営

(1) 職員数

事務職 (再任用を含む)	研究職 (再任用を含む)	(うち県立大併任)	技能労務職	会計年度 任用職員	非常勤 嘱託員	合計
14人	32人	(19人)	1人	34人	1人	82人

*令和8年1月末現在

(2) 組織体制



* 令和8年1月末現在

(3) 令和7年度当初予算額

(単位：千円)

区分	予算額	財源内訳		
		国庫補助金	特定財源	一般財源
維持運営費	209,911	29,600	25,812	154,499
事業費	127,355		36,376	90,979
計	337,266	29,600	62,188	245,478

II 事業の概要

「新たなひとはくビジョン」のスローガン

みんなと共に、地域と共に一ひょうごの自然・環境・文化の多様性を守り、育む社会を目指してー

目指すべき博物館像

- ① リアルなモノ・コト・ヒトとの触れ合いに基づく多様な学びをすべての人に提供する博物館
- ② 自然・環境・文化を継承する担い手の活動を支援する博物館
- ③ 自然・環境・文化と身近な暮らしをつなぐ博物館
- ④ 自然・環境・文化の継承に資する先導的・独創的な研究・シンクタンク活動を行う博物館
- ⑤ 標本・資料の持つ価値をすべての人とひらく博物館

2023～2027年度の重点目標（第5期中期目標）

- ① 「リアルなモノ・コト・ヒトとの触れ合いに基づく多様な学び」と「生涯を通じて学び続けられる場」をすべての人に提供する。
- ② 自然・環境・文化の継承に取り組む担い手の成長と活動を支援し、多様な主体との連携を強化する。
- ③ 自然・環境・文化の継承に資する先導的・独創的な研究・シンクタンク活動を展開する。
- ④ 標本・資料の「収集・保管機能」と「デジタル・アーカイブ化」を強化し、標本・資料から得られる価値を最大化する。
- ⑤ 「情報発信の強化」と「マネジメントの最適化」を促進し、目指すべき博物館像の実現を図る。

【重点目標1】 「リアルなモノ・コト・ヒトとの触れ合いに基づく多様な学び」と「生涯を通じて学び続けられる場」をすべての人に提供する。

(1) 常設展示

場所	展示名称	内 容
本館 3階	ナチュラリストの幻郷	博物館に寄せられた多数のコレクションを紹介。コレクションすることの楽しさを味わうことができる。
	兵庫の自然誌	兵庫の多彩な自然を紹介するなかで、各地域における自然と人々の生活との密接な結びつきを紹介する。
	人と自然	過去における人と自然の良好な関係および現代におけるその関係の急速な変貌を紹介する。
	新しい文化	「ゴミ」と「モノ」から豊かな暮らしのあり方や環境問題を考える。
	兵庫の恐竜化石	丹波市・丹波篠山市で発掘された恐竜等の化石の実物標本とともに発掘調査の概要や最新の研究成果を紹介する。
本館 2階	水生生物の世界	クジラやサメ等の海にすむ大きな生物や、河川の魚をめぐる生物たちの食物連鎖について紹介する。

本館 1階	地球・生命と大地	地球の構造と歴史、動植物の歴史と現在の姿を提示し、人の生活を根底で支えてきた地球全般を解説する。
本館 4階	ひとはくサロン	兵庫の自然や生物の暮らしなどをビデオで紹介するほか、収蔵品や植物の分布等が調べられる情報ブース。

(2) 企画展（令和7年度）

場所	名称	期間	内容
本館 2階	企画展 価値の手直し展～ アップサイクルから みつめるモノと 人の豊かな関係～	R7.2.15～5.31	本企画展ではアップサイクルをテーマに、一度価値がないとされたモノでもそれぞれの視点と方法で価値をつける（手直しする）ことができることを紹介します。
本館 2階	企画展 甲虫展—ひとはく コレクションのビ ートルズ—	R7.7.19 R8.1.12 ～	みんなのよく知るカブトムシ、テントウムシ、タマムシはすべて甲虫のなかまです。誰もが驚く甲虫の世界をご紹介します。
本館 2階	企画展 DNAってすごい！～自 然史研究の大革命～	R8.2.11～5.31	名前は聞くけどよく知らない。DNAってそんな存在ではないでしょうか。DNAってなあに？から初めて、DNAの分析でわかった生物の意外な真実や、最新の分析技術を紹介します。

(3) イベント（令和7年度）

名称	開催日	概要
Kidsサンデー	毎月第1日 曜日（休館 中の1月、2 月を除く）	小さな子どもたちにも楽しめる自然・環境に関する様々なプログラムを実施。

共生のひろば	R8. 2. 11	将来の生涯学習や地域環境保全活動の担い手となるべき人材（地域研究員）を養成し、それらの発表と交流の場として開催。
--------	-----------	--

(4) 一般セミナー（申込制）

研究員や連携活動グループ等による事前申込制の専門的なセミナーを160講座開催

分野	セミナーのタイトル	講座数
地球科学	化石発掘体験セミナー、葉の化石を調べよう、六甲山・大阪湾の成り立ちと自然の恵み・災害、化石を調べよう講座、化石の見分け方講座、化石を見つけよう！講座、アンモナイトの断面標本を作ろう、恐竜発掘記、岩石をつくる鉱物を観察しよう、丹波竜を作ろう！、石ころの見わけ方入門、兵庫の恐竜～兵庫五国 太古のいきものたち～、古生物学者への道、脊椎動物化石の研究手法（基礎分類編）、地質ハイキング～六甲山から見る大阪平野～、生きている恐竜の世界～化石でたどる鳥類の進化～、ジオの教室 in 沼島 ～淡路で一番古い地層はここにある！～、7000万年前の地層を観察しよう	32 講座
植物	DNA情報を用いて形態で区別が難しいシダの種類(隠蔽種)を認識する、DNA情報を用いて日本列島の森林の歴史的な成り立ちを明らかにする、DNA情報を用いて配偶体(前葉体)のみで生き続けるシダ植物を探索する、シダ植物の見分け方、芦屋市奥山地域の樹林で多様性を知る(4・9・11月)、被子植物の見分け方、深田公園 春の樹木ウォッチング、植物観察会(春日山：旧柳生街道)、ちいさな押し花標本をつくってみよう！(春編・秋編)、氷ノ山春の植物ハイキング(健脚向け)、植生の見分け方 野外観察と調査実習、六甲山紅葉谷 春の植物・植生ウォッチング、植物観察会(春の雑木林：有馬富士)、生物多様性に配慮した地域性種苗による緑化のススメ、植物の系統関係と多様性、宝塚市最明寺の滝のシダをみる、誰かに話したくなる身近な植物の話、植物観察会(春の形的形海岸)、森と土の観察会(再度山編)、コケ植物の見分け方、知れば知るほど変な植物：21世紀のユリ科と日本の野生ユリの謎、植物観察会(武田尾)、草原の担い手養成講座、植物観察会(箕面)、植物観察会(大住寺のサギソウ)、シダの標本づくり、里山林の植物を観察しよう、ささやまの森公園のシダをみる、植物観察会(草甸の植物：逆池)、森と植生の見分け方 野外観察と調査実習、生態学からみた「鎮守の森」、植物観察会(赤穂御崎の海岸)、ニホンジカによる生物多様性の喪失、カヤツリグサ科の見分け方、森林生態学入門	39 講座
昆虫(節足動物)	幼稚園・保育園・小学校の教員・指導者向け「正しい虫の扱い方」、おとなの昆虫教室、クモの見分け方、甲虫標本を作ろう、カメムシの見分け方、蜘蛛の採集と観察	5 講座
動物と生態系	顕微鏡で見てみよう！海の小さな生き物観察会、海洋プランクトンの顕微鏡観察、デンキウオの電気のおしゃべりを聞いてみよう、大沢町で希少淡水魚の観察、香美町 海の生物観察会、生き物の多様なコミュニケーション、動物行動学者の博物館資料活用法(収蔵庫ツアー付き)、ダンゴムシを育てよう、メダカの透明標本作製、海の日特別講座 深海生物への誘い：研究船で探る！海底熱水域動物の生活史戦略、川の水生昆虫観察会(住吉川編)、動物行動学基礎講座、生き物の行動ってどうやって測るの？：動物行動学入門、二枚貝の解剖、河川生態学入門、イカの解剖、DNAが拓く自然史研究の最前線、ネコ科の系統樹に基づく種間比較、環境DNA最新研究、播磨の淡水魚	20 講座

環境と地域づくり	稲作文化を体験しよう！～藁苞（わらづと）納豆づくり～、合意形成学入門、おそと遊びでの自然体験導入のヒント、ウミホテルをつかまえよう、五感で楽しむコーヒー焙煎、風景デザイン学入門、神社のみかた・歩きかた「明石の風土とそのレイヤー」、ウド小屋を建てる！～風土的建築が生む風景の再現体験～、絵図や古地図を片手にぶらり。今昔まちあるき（尼崎）、神と妖怪の環境学～たつの編～	10 講座
その他・複合	研究活動支援セミナー～科学論文の読み方入門講座～、ひとはくアカデミック・ステイ in 但馬（2泊3日）、共存する小さな渡来者たちーシロツメクサもダンゴムシも海外からやってきたー、保全遺伝学入門、大学でどんなふうに自然を学べるの？研究員が中高生の進路の悩みに答えます、ピカピカ泥だんごを作ろう！、プラスチック封入標本をつくろう、ジーンファーム見学会：遺伝子に配慮した絶滅危惧種保全の現場、研究活動支援セミナー～科学論文の書き方入門講座～、地理情報システム入門、新種を見つけるー分類学者の研究ー、兵庫県のいろいろな生き物～タンポポ・ダンゴムシ・カタツムリなど、未来に残したい農業や農村の持つ魅力、里山の自然を守るとはどういうことか、ひとはくミッケ！～三田の自然編～、タンガニイカ湖での調査、軽石のふしぎ、新種はどのように発見されるのかー分類学者の研究について～、妖怪が息づく地域づくり	19 講座
連携活動グループセミナー	山野草栽培の基礎講座、春のコケ植物観察会1（道場）、春のコケ植物観察会2（有馬富士公園）、家族で蜂蜜しぼり（5月・6月）、ハチ北高原コケ観察会（1泊2日）、裏六甲逢山峡の「ヤマアジサイ観察会」、夏のキノコ観察（フラワータウン・一庫公園）、藍の生葉染め、月のクレーターも見える天体望遠鏡の工作、ミツバチのうんちく（9月・10月）、山野草のコケダマ作り、ハチ北秋のキノコ・木の実ツアー（1泊2日）、秋のキノコ観察（有馬富士公園）	16 講座
教職員・指導者セミナー	初めての生物統計学、ひょうごの化石と地層、小学校の授業で使える植物の話ー身近な植物を中心にー、森の土の基礎を学ぶ、動画編集と教材づくり、ピカピカ泥だんごの作り方、身近な里山の樹木を知る・見分ける、収蔵庫で触れる教科書の先の深淵：「花のつくり」と「植物の分類」、動物行動学入門、動物進化の物語～進化を扱う授業の工夫～、水中生物の小さな世界、生物の系統と進化：化石からみる脊椎動物の分類、小学校の授業に役立つ星の話、中高でできる海洋生物研究ー飼育と実験のコツー、小さな子どもの指導者向け 身近な植物観察の仕方、SDGsを使って子どもたちと社会を見つめるー身近な公園に出かけようー、顕微鏡の使い方植物編 花粉と気孔の観察、デンデンムシとダンゴムシ	19 講座

(5) その他のセミナー

名称	概要	実績
特注セミナー	来館団体向けに、120以上のメニューから相談に応じて実施。	180回、8,844人
オープンセミナー	来館者を対象に、当日参加が可能な小規模なセミナーを随時開催。	721回、33,948人

* 令和7年12月末現在

【重点目標2】 自然・環境・文化の継承に取り組む担い手の成長と活動を支援し、多様な主体との連携を強化する。

(1) 連携活動グループ・地域研究員等の活動支援

セミナー受講者等で、地域の自然環境の研究、学習活動に取り組むグループ・個人と、「連携活動グループ」「地域研究員」等として協定を結び、自主的な研究等活動を促進する。

- ・地域研究員 63人
- ・連携活動グループ 20団体 *令和7年12月末現在

(2) 連携事業

当館と目標を共有する多様な主体との連携事業を積極的に実施。

- ・主催連携事業実施件数 535件 *令和7年12月末現在

(3) キャラバン・アウトリーチ事業

県内の様々な地域・施設でキャラバン事業として展示・セミナー等を実施し、多くの学習機会を提供するとともに、地域での生涯学習支援、地域づくりを推進する担い手の育成を図る。

- ・主催アウトリーチ事業実施件数 320件 *令和7年12月末現在

【重点目標3】 自然・環境・文化の継承に資する先導的・独創的な研究・シンクタンク活動を展開する。

区分	実績
学術論文・図書出版数	22本
一般向け著書等	43本
学会発表	61件
研究助成	49件 (4,153万円)
受託研究	14件 (3,482万円)
委員・アドバイザー等件数	133件

*令和7年12月末現在

【重点目標4】 標本・資料の「収集・保管機能」と「デジタル・アーカイブ化」を強化し、標本・資料から得られる価値を最大化する。

区分	実績
標本・資料の登録点数	40,137点
標本・資料のデジタルデータ登録点数	2,347点
資料の利活用件数	124件

* 令和7年12月末現在

【重点目標5】「情報発信の強化」と「マネジメントの最適化」を促進し、目指すべき博物館像の実現を図る。

区分	実績
ホームページアクセス	74万件
新聞雑誌等掲載・メディア出演	173件
外部資金獲得金額	9,193万円

* 令和7年12月末現在

Ⅲ 利用状況等

利用者数（ビジター数）の推移

(単位：人)

年度	計	本館	キャラバン	共催	恐竜関係	コレクション
H4	67,663	67,663	—	—	—	—
H5	105,215	105,215	—	—	—	—
H6	76,003	76,003	—	—	—	—
H7	86,551	86,551	—	—	—	—
H8	89,713	89,713	—	—	—	—
H9	99,715	99,715	—	—	—	—
H10	109,170	109,170	—	—	—	—
H11	112,632	112,632	—	—	—	—
H12	181,530	137,152	44,378	—	—	—
H13	259,984	165,663	94,321	—	—	—
H14	255,193	154,719	21,089	79,385	—	—
H15	262,973	145,528	80,326	37,119	—	—
H16	373,112	185,892	135,454	51,766	—	—
H17	394,856	202,751	133,282	58,823	—	—
H18	451,378	206,605	155,466	89,307	—	—
H19	426,139	192,916	171,708	18,186	43,329	—
H20	555,782	206,022	93,593	164,196	91,971	—
H21	432,574	170,545	44,412	136,817	80,800	—
H22	464,605	173,514	52,957	176,111	62,023	—
H23	681,940	170,943	242,190	197,743	71,064	—
H24	895,748	179,734	375,822	276,748	63,444	—
H25	956,389	166,650	283,215	417,356	89,168	—
H26	818,961	153,477	424,379	154,895	86,210	—
H27	841,242	140,510	279,748	329,021	91,963	—
H28	760,004	142,810	150,848	350,261	116,085	—
H29	976,219	159,487	270,135	413,870	132,727	—
H30	947,125	162,940	280,862	380,838	122,485	—
R1	832,059	163,723	225,531	310,137	132,668	—
R2	482,089	104,236	34,904	214,910	128,039	—
R3	647,574	118,777	49,541	352,618	126,638	—
R4	755,143	180,190	58,615	337,707	150,539	28,092
R5	786,447	183,934	54,245	323,697	158,360	66,211
R6	1,268,746	174,502	140,879	782,227	80,665	90,473
*R7	847,040	141,171	46,000	469,471	121,349	69,049

*：令和7年12月末現在

IV 第5期中期目標 (R5～R9年度) 令和7年12月末現在

【重点目標1】「リアルなモノ・コト・ヒトとの触れ合いに基づく多様な学び」と「生涯を通じて学び続けられる場」をすべての人に提供する。

指標	R7 目標値	R7	達成率(%)	R5-9 の 目標値	R5-9	達成率(%)	単位
1. 総利用者数 (本館利用者数+外部(録音)講演参加者数+連携施設利用者数+主催アウトリーチ事業参加者数+共催・協力事業参加者数)	80	77	96	400	281	70	万人
2. セミナー実施件数 (一般セミナー+オープンセミナー+特注セミナー)	1300	1056	81	6500	3570	55	件
3. セミナー受講者満足度	95	100	105	95	96	101	%
4. 主催アウトリーチ事業実施件数 (キッズキャラバン+学校キャラバン+その他キャラバン)	50	320	640	250	1,123	449	件

【重点目標2】自然・環境・文化の継承に取り組む担い手の成長と活動を支援し、多様な主体との連携を強化する。

指標	R7 目標値	R7	達成率(%)	R5-9 の 目標値	R5-9	達成率(%)	単位
1. 連携団体数 (「連携活動グループ」と「様々な連携事業の相手先」を含む)	200	561	281	1000	1039	104	団体
2. 連携事業実施件数 (主催アウトリーチ事業+共催・協力事業+館内連携事業*) (*展示、セミナー、キッズサンデー、ドリームスタジオ、シンポジウム等)	170	577	339	850	2,035	239	件

【重点目標3】自然・環境・文化の継承に資する先導的・独創的な研究・シンクタンク活動を展開する。

指標	R7 目標値	R7	達成率(%)	R5-9 の 目標値	R5-9	達成率(%)	単位
1. 学術論文・専門図書数	50	22	44	250	146	58	本
2. 県政課題関連論文・著作・研究発表数	70	62	89	350	222	63	本
3. 委員・アドバイザー等件数	150	133	89	750	511	68	件

【重点目標4】標本・資料の「収集・保管機能」と「デジタル・アーカイブ化」を強化し、標本・資料から得られる価値を最大化する。

指標	R7 目標値	R7	達成率(%)	R5-9 の 目標値	R5-9	達成率(%)	単位
1. 標本・資料の登録点数	20000	40137	201	100000	184540	185	点
2. 標本・資料のデジタルデータ登録点数 (植物標本+昆虫標本+地学系標本+古写真)	1500	2347	156	7500	5046	67	点
3. 標本・資料の利活用件数 (館内展示+館外展示+セミナー+研究+貸出件数+マルチメディア等データ提供件数)	150	124	83	750	546	73	件

【重点目標5】「情報発信の強化」と「マネジメントの最適化」を促進し、目指すべき博物館像の実現を図る。

指標	R7 目標値	R7	達成率(%)	R5-9 の 目標値	R5-9	達成率(%)	単位
1. HP アクセス件数	60	74	123	330	258	78	万件
2. 外部資金獲得金額 (各種助成金+受託研究+分任業務)	8000	9193	115	40000	29878	75	万円
3. 中期目標の達成度 (当該指標以外の総指標数に対する「達成率90%以上の指標数」の比率)	90 ^{**}	57	63	90	67	74	%

※当該指標についてはR9年度末時点の数値を目標値に設定しているが、この表では便宜上、当目標値を単年度目標値としても記載している。